

四国支所

四国地方の森林は、豪雨・急傾斜という厳しい自然条件にあり、面積は全国の6%と少ないものの、森林率は74%と高く、人工林率は61%に達しており、国内トップの林業地帯です。近年、地域産材の供給力が向上し、大型国産材製材工場や木質バイオマス発電所の新設・稼働が相次ぎ、木材需要も増加し、素材生産量も上昇しつつあります。

林業を地方創生の柱とするためには、林業労働力が存在する中山間地域の活性化が必要となります。エネルギー的自立や副収入源の「百業」創出により定住・移住を促進するシステムについて研究し、「百業サミット」等により全国への普及を目指しています。

また、長伐期林の成長特性や虫害リスク、急傾斜地に対応した架線系システムの解析などを基に、高齢化した人工林を今後どのようにに管理すれば林業収益が最大化できるか、などを予測する施業システムモデルを開発し、林業関係者のための冊子を作成中です。

最近皆伐が増えつつありますが、伐採した後の再造林にとって、シカによる食害が最大の障害となります。集中捕獲による植栽地への影響、植生によるシカ密度の推計手法とそれに対応した対策コストについて研究を進めています。



キバチ類による材変色被害



山の上まで造成された人工林



餌付けにより誘引されたシカ



適切に管理されている高齢スギ人工林